

N49a **ISOPHOT による進化した晩期型星のマッピング観測**

橋本修 (ぐんま天文台)、泉浦秀行 (国立天文台岡山)

ISO 衛星を用いた OH/IR 天体 IRC-10529 の星周構造の遠赤外線撮像観測について一昨年秋の年会で報告した。恒星進化末期の AGB の中でも特に最期の進化段階にあるこのような天体は、極めて激しい質量放出を行っており、これによって生じた光学的に非常に厚いダストエンベロープに覆われているため可視光ではほとんど見ることができない。

ISO によって観測された IRC-10529 の星周ダストエンベロープの大きさは非常に小さなものであり、現在の激しい質量放出は決して長い時間続いていたものではなく、数千年以内の比較的最近始まったものであることが明らかになった。このことから、IRC-10529 は惑星状星雲に至る最期の質量放出をごく最近開始した生まれだての OH/IR 天体である可能性が高いと考えられる。

WX Psc は IRAS の観測などから IRC-10529 に非常に良く似た特性をもった晩期型天体である。ISO 衛星を用いて WX Psc の波長 $90\mu\text{m}$ での星周構造の観測を行ったので、その結果を報告する。IRC-10529 と同様に非常にコンパクトで光学的に厚い星周ダストエンベロープが見られ、この天体も非常に激しい質量放出を最近開始したものであることが推定される。恒星進化末期において質量放出を急激に変化させているこれらの天体の研究から、AGB から惑星状星雲に至る恒星の最末期の進化の状況の詳細が明らかにされるものと期待される。